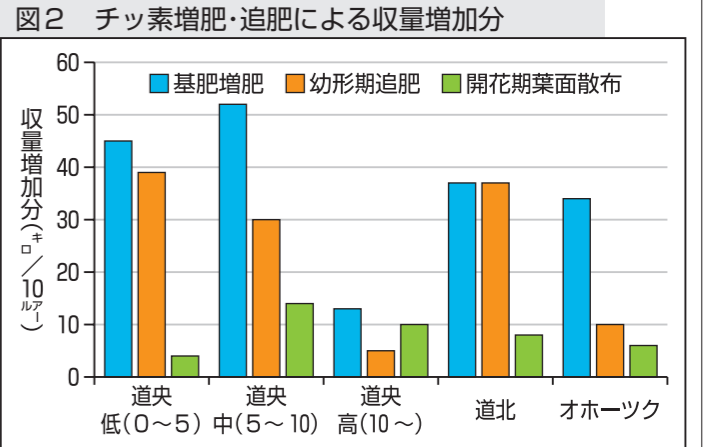
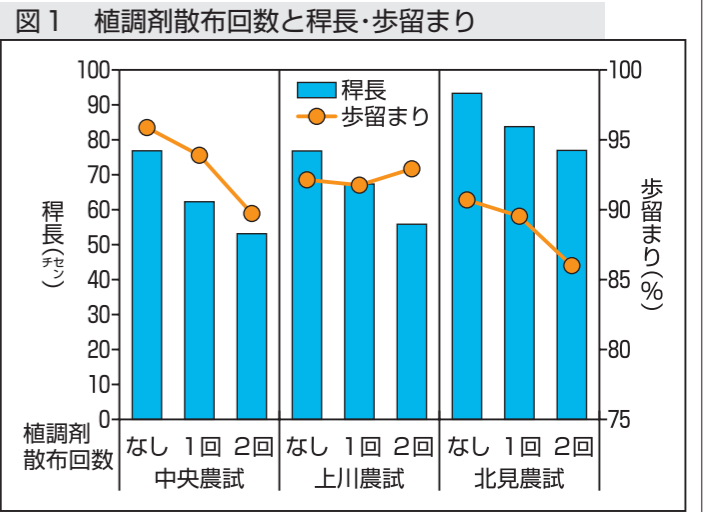


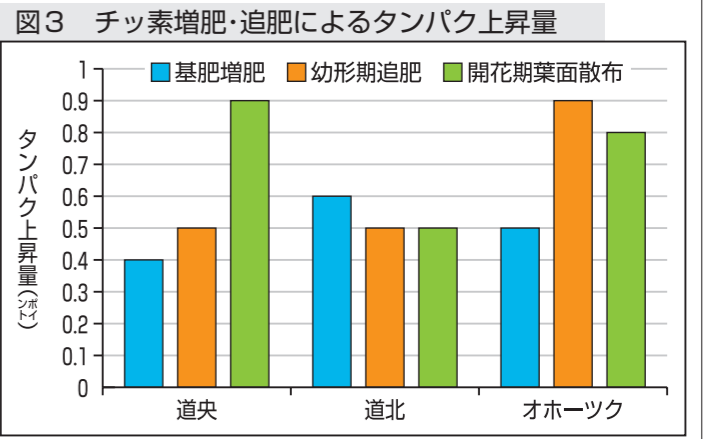
倒伏させずに増収・高タンパク

春まき小麦「春よ恋」 植調剤を利用

北海道立総合研究機構 農業研究本部
中央農業試験場 農業環境部
生産技術グループ 主査
杉川陽一



注1) 道央の()内の数値はチッ素肥沃度の指標である熱水抽出性窒素(%)/100%、乾土100%当りに含まれる熱水抽出性窒素量(%)を示す
注2) 増肥量および追肥量は3~4%/10a



注) 増肥量および追肥量は3~4%/10a

道内の春まき小麦主力品種の「春よ恋」は倒伏しやすいため、チッ素施肥標準量は倒伏防止を前提とした量に設定されている。近年、植物成長調整剤(以下、植調剤)の価格低下に伴い、これを用いて倒伏を防止しつつ、施肥標準量以上のチッ素施肥で増収とタンパク向上を狙う取り組みが行われるようになった。本記事では、春よ恋の増収・高タンパク化に向け、植調剤を用いた多収栽培技術について解説する。

植調剤の散布回数

小麦において、植調剤は倒伏を短くすることによる倒伏軽減を目的に使用される。各植調剤の散布回数は1回とされるが、生産現場では異なる剤を組み合わせて散布する事例もある。一方、散布時は穂数1平方...

植調剤散布時の倒伏回避指標

植調剤散布により倒伏性は高まるが、全く倒伏しないわけではない。そこで、倒伏を回避するための生育指標を検討した。強雨による倒伏を避けるため、穂数1平方...

チッ素追肥・増肥による増収効果

図2に基肥増肥、幼形期追肥、開花期葉面散布を実施したときの増収量を示した。地域や圃場のチッ素肥沃度によって異なるものの、10%当り3~4%の基肥増肥や幼形期追肥による増収効果が認められる。

開花期葉面散布による高タンパク化

図3に基肥増肥、幼形期追肥、開花期葉面散布を実施したときのタンパク上昇量を示した。増収を狙った幼形期追肥や基肥増肥でもタンパクは上昇するが、さらにはタンパクを高めた場合、開花期葉面散布が有効である。

道央やオホーツクでは基肥増肥の方が幼形期追肥よりも効果が大きい。安易な基肥増肥は気象・土壌条件次第で倒伏を招くため、幼形期の生育診断に応じた追肥が有効である。前述の倒伏回避指標である穂数1平方...

方、道央のチッ素肥沃度「低」(熱水抽出性窒素5未満)乾土100%当りに含まれる熱水抽出性窒素量(%)で1平方...

「中」で幼形期茎数1平方... 以上で18%減収した。生育例では、追肥しなかった場合に比べて追肥を心がけた。

地域	目標収量	チッ素肥沃度区分(熱水抽出性窒素%)	チッ素施肥(基肥+幼形期)				開花期葉面散布
			低地土	台地土	火山性土	泥炭土	
道央	480	低(5~)	8+4	9+4	6+4	左記に加え、穂揃い期生育診断 ^{注5)} に応じて実施する。診断時に葉の黄化が激しい場合は実施しない。	
		中(5~10)	8+4	9+4	6+4		
		高(10~)	8	9	6		
道北	420	-	8+4	9+4	6+4		
オホーツク	540	-	7+3	8+3	5+3		

注1) 植調剤は原則1回散布とする
注2) 道央区分低、中、オホーツクはそれぞれ、幼形期茎数950、800、700本/平方...未満の場合に幼形期追肥が可能。道北は幼形期茎数診断が不要
注3) 道央低区分および道北の倒伏リスクが低い圃場では全量基肥施用が可能。オホーツクは倒伏および低タンパクの危険が少ない圃場で全量基肥施用が可能
注4) 乾土100%当りに含まれる熱水抽出性窒素量(%)
注5) 穂数×草丈が、道央:50,000以下、オホーツク:46,400以下で開花期葉面散布が可能。道北は草丈を7%補正(÷0.93)することで、既往の生育診断基準値が適用可能

断を行い、倒伏回避指標の成熟期チッ素吸収量10%当り16%を超えないように開花期葉面散布を実施する。道央やオホーツクでは穂揃い期草丈×穂数が成熟期チッ素吸収量と相関が高いため、道央では5%以下、オホーツクでは4%以下、以下の場合に開花期葉面散布する。道北では植調剤散布によって穂揃い期草丈がおよそ7%短くなるが、穂揃い期草丈×止葉直下葉葉色値を補正(÷0.93)することで、従来の追肥の要を判断できる。

適用の留意点
これまでの内容を表にまとめた。本技術は基準収量を達成している圃場でのオプションであるため、基準収量に達していない場合はチッ素肥沃度や物理性の改善を優先する。また、泥炭土への適用は、過去の収量や倒伏を考慮して慎重に行う。

終活のすすめ

24

(一) 社終活マイライフ
代表理事 櫻木 泰子

近年、終活の在り方や考え方も変化が現れ、人生の節目から自身の終活を真剣に捉えてほしいと願わずにはいられません。

人生100年時代の終活

今世の中、地震や台風など自然災害、交通事故、無差別殺傷事件、病气・感染症など、日々の生活の中で、いつ、どこで、誰に、何が起きるかわからない昨今の現実。「もしもの時」を想定しながら生きる大切さ、死を描いてみませんか?

考えることは、今をどう生きるかにつながっています。家族や大切な人、日常から話し合い、気持ちを伝えておくことがとても重要になっていきます。

100人いれば100通りの生き方が形成され、思い・希望・考えも一人一人違っています。過去を振り返り、今の自分の状況を把握して、日常触れ合う周りの人の「支え」に感謝し、「ありがとう」を伝え、明日という「みらい」をどう生きたいのか選ぶ自由は、あなた自身の思いの中にあります。

人生100年時代、これからの人生をより良く自分らしく生きるために、未来予想図を思い描いてみませんか?